



ワイキキビーチにて  
～夏本番！海や山にリフレッシュに行きましょう～

## 優しい医療 ～機能別病棟のはじまり～

新館竣工及びB館改修より運用を開始してまいりました老人性痴呆疾患治療病棟、精神科急性期治療病棟、精神科療養病棟も平成16年6月、社会保険への申請も終わり名実ともに機能別病棟の整備が完了いたしました。今回はこの病棟の機能についてご紹介いたします。

\*

介護療養病棟は平成11年8月内科52床を療養型へ転換以降、平成13年9月に療養病床28床の開設許可を受け、現在は介護療養型医療施設として80床を有しA-2、C-2より構成されています。A-2病棟は介護保険適応の26床と医療保険適応の6床とからなり、要介護度の高い患者様がほとんどで、スキンケアに情熱を傾け「褥瘡(じょくそう)だけは作らないように」「細かなところにも目の届くケア」を目標にスタッフ一同頑張っています。スタッフは病棟内をいつも綺麗にし、家庭の雰囲気になしでも近づけるようにと心掛けています。C-2病棟は介護保険適応の48床を有しています。その内5床はショートステイの受け入れを行い、生活介護施

設などでの受け入れが困難な医療処置のある患者様を主体として在宅介護をしておられるご家族の負担を少しでも軽減していただけるようにと考えています。入院中の患者様には、「和」を基調とした療養環境の中で、褥瘡防止用マットレスを使用した機能的なベッドと、ゆったりとしたスペースの病室、ワイドテレビや大きな窓を備えた広いホールで安心して療養生活を送っていただけるよう配慮しています。毎日のケアサービスにおいては、食事、排泄、清潔面で多岐にわたり患者様が安全、安楽に療養生活を送っていただけるように各部屋ごとに受け持ちスタッフを配置し、担当看護師や担当ケアワーカーにより、患者様一人ひとり細やかにケアの提供ができるよう努め、人として思いやりのある看護、介護を展開しております。また、患者様の状態に応じ、ご本人やご家族の希望に沿ったサービスの提供がおこなえるようプランを立て、定期的にケアカンファレンスをおこない、スタッフ間の意識統一を図っています。

## 優しい医療 ～機能別病棟のはじまり～

老人性痴呆疾患治療病棟(C-1病棟)は43床から成り、平成15年12月より運用を開始しています。著しい痴呆症状や問題行動のために自宅や施設での治療・介護が困難になった痴呆患者様を高水準の居住環境で短期集中的に治療を行い、手厚い看護・介護を提供しています。また痴呆治療病棟の機能を生かし、患者様の心の安定を図りながら、痴呆の周辺症状(不安、焦燥、攻撃性、興奮、不眠、妄想、幻覚、抑うつ、徘徊、異食など)の改善に力を入れています。専属の作業療法士による社会生活に重点を置いた日常生活活動訓練、集団レクリエーション、音楽やビデオ鑑賞、将棋、ROM訓練、従手筋力訓練、歩行訓練など患者様の特性にあわせた個別の関わりや医師・臨床心理士による回想法を通しての残存能力の維持を心がけ、自宅や施設復帰に向け安定した生活を取り戻せるように援助しています。

\*

精神科病棟は、精神科療養病棟、慢性期閉鎖病棟、慢性期開放病棟、精神科急性期治療病棟より構成され、平成16年6月より機能別病棟として本格運用を開始いたしました。

精神科療養病棟(B-2病棟)は48床で、大部屋9部屋、PICU4部屋、個室8部屋から構成されています。患者様は療養をする傍らホールでゲームをする方、テレビを観る方、散歩に出掛ける方と様々な過ごし方をされています。療養病棟としてスタートしたばかりなので試行錯誤

の状態ですが、レクリエーション、作業療法を通じて患者様のQOLの向上や退院に向けて援助していきたいと思っています。

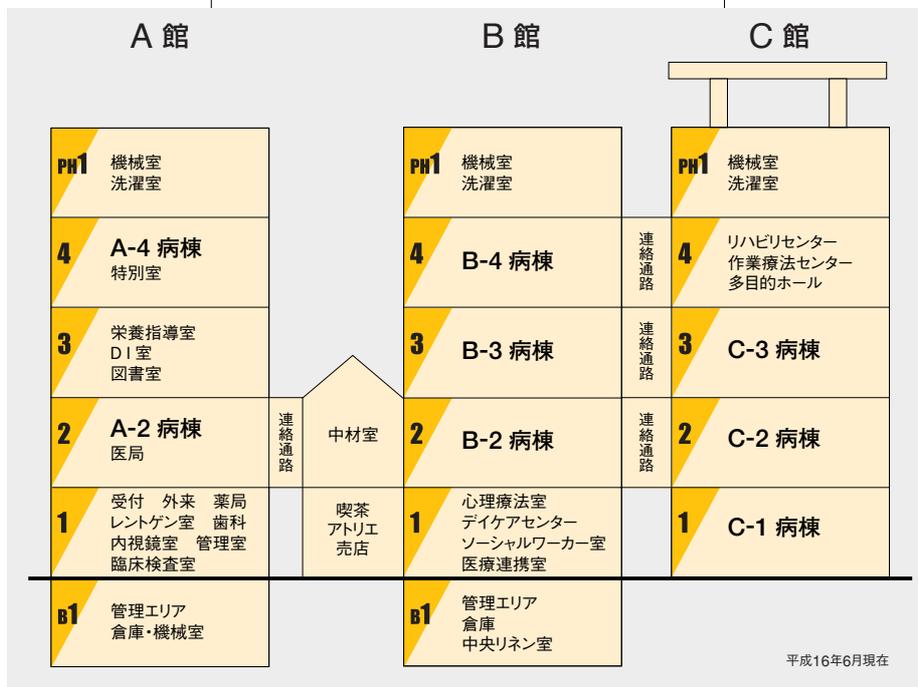
慢性期閉鎖病棟(B-3病棟)は62床を有しています。閉鎖空間という特殊な環境のせいか、患者様は常にスタッフとの交流を求めてステーションにいらしゃいます。スタッフはこれに対して、愛情・根気・忍耐を合言葉に笑顔で対応しています。スタッフはベテランが多く患者様の幅広いニーズに応えられるように、またそれぞれの方の個性を生

神科急性期治療病棟(C-3病棟)です。入院期間は3ヶ月以内が原則で、その間に社会復帰のためのお手伝いをさせていただいています。入院される患者様の中には、社会生活の中で精神的にも、身体的にも、苦しまれ入院して来られる方が多くみえます。その方たちの回復がスムーズに進むように寄り添える医療スタッフでありたいと思っています。チーム医療を目指し、病棟カンファレンスには医師・看護師ばかりでなく薬剤師・臨床心理士・作業療法士・精神保健福祉士・検査技師・ケアワーカーなど多職種が

集まります。病棟の構造は、患者様の安全を前提に、可能な限りプライバシーへの保護、医療従事者との関係作りがしやすいように作られています。具体的には、各ベッド周囲には、カーテンと間仕切り家具を設置し大部屋でも個室感覚で使用して頂けます。詰め所はオープンカウンターとし、看護師にいつでも声を掛けていただけるようにしています。また、病棟内には自動販売機、ロッカー

式冷蔵庫を設置、入院中のアメニティーにも配慮させて頂いています。入退院の多い病棟の中で、苦しんで入院された患者様の症状が和らぎ、社会復帰されていく姿は何よりも嬉しい瞬間です。「うちでも、しばらくのんびりお過ごしください。万一今後社会の中でお疲れになったときは、お待ちしています」とお送りしています。

私ども共和病院スタッフは共和会の理念「優しい医療、楽しい職場」を合い言葉に患者さまに安心と満足の提供を行い、治療・療養に専念いただけるよう信頼される医療を目指し、日々知識・技術の向上に努めてまいります。



かしながらより魅力的な病棟にしていきたいと思っています。

慢性期開放病棟(B-4病棟)は68床で、長期入院患者様が多く、日常生活全般において介助を要する患者様が多くおみえになります。そんな中で来年開設計定の福祉ホームBも視野に入れながら、そして個人担当の充実をはかりつつ援助しています。長期入院の中で単調になりがちな入院生活を個別の作業療法活動も活用しつつ生活の質の向上を図れるようにスタッフ一同努力しています。

精神科も他の診療科同様、急性期の対応が十分に出来る機能が求められています。その機能を担っているのが精

## 大府市 学童保育連絡協議会総会 記念講演



学童保育所とは、共働きで留守家庭の小学生の子どもが、学校から下校したあとに過ごす場所です。大府市には、3箇所の民間学童保育所があります。この3箇所の学童保育で構成されている大府市学童保育連絡協議会が4月18日に総会をしました。その総会后、当院榎本院長が、「お母さん・子どもの心が見えますか？子どもが育つ…を支援するために」というテーマで子育てに関する講演をしました。榎本院長はこの広報誌でも以前、「子育てノウハウ」について連載していましたし、過去にも県教育委員会はじめ様々な場所で講演をしています。当日は、普段働いていて子供を預けている父母が多数聴講していました。その中には、

当院の職員も2名含まれています。参加者の一人である加藤やよいさんから感想を寄せてもらいました。

“先生の言葉の中で印象に残った言葉があります。それは、子供が本当に「お母さん」と

呼んだときに振り向けるかが大切。子供に向かい合うのは人任せにできない、ということです。働く親にとって子供と向き合う時間を作るのは大変です。つい忙しくて「ちょっと待って。後でね」の言葉が多くなってしまいます。私の子供は学校が終わると、どろんこクラブという学童保育所に通っています。普段は仕事に追われる中で、指導員の先生や他の子供さんの父母に助けをもらいながら日々を送っています。忙しい毎日ですが、「私（親）はあなた（子供）が本当に大切。私はあなたをとても愛している」というメッセージを送り続けたいと感じました。榎本先生のお話は子育てを振り返る良い機会になりました。”

当院の職員も子育てで真っ最中の人が多くいます。休憩時間には、子供の悩みを相談しあう場面を多く見かけます。子育てはなかなか大変ですがみんなで助け合いながら成長を見守りたいものです。

2004年度  
大府市学童保育連絡協議会総会

- 1 開会の挨拶
- 2 来賓の紹介
- 3 2003年度活動報告
- 4 2003年度総括
- 5 2004年度活動方針
- 6 2003年度子どもつり絵括
- 7 映画「ソウル・シティ」を鑑賞し、総括
- 8 2003年度表彰状授与
- 9 2004年度会則の発表



## 子供と 虫捕り

小野 貴公重

**私**には、二人の子供がいます。上の子はあまり虫には興味はなさそうですが、下の子は保育園に行くようになった頃より、休みになると「虫を探りに行こう」と何度もせがまれます。今は昔と違って田んぼは少なくなり、家のすぐ近くではあまり採れなくなりました。去年は車に乗って川の堤防まで行き今まで見たこともない大きさの殿様バッタやクツワムシ等を探って喜んでいました。虫を探った時のわが子の瞳は輝いていて、私にとってもつかの間の休日の癒しになります。この時期になると、かぶと虫が欲しいと言い出します。キラキラ光る羽や、いかにも強そうな角に惹かれる子供の気持ちは私にも理解できる気がします。しかし、最近はなかなかかぶと虫がいません。そんな子供の様子を見て祖父がペットショップでかぶと虫を買ってきました。祖父の手にあるかぶと虫を見た子供は、喜んだ表情をしていました。しかしその瞳は、川の堤防で虫捕りをした時ほどの輝きはありませんでした。もしも、祖父と一緒に、山でかぶとを見つけられたなら…子供の瞳はどんな輝きをするのでしょうか…。いつも、仕事の帰りを、保育園で待つわが子へのプレゼントに今年の夏は自然の中でのかぶと虫採りを実現させてやりたいなあと計画を練っています。



### 編集後記



オリンピックの年がきました。サッカーの男女ダブル出場や、女子バレーの活躍に興奮したり、女子ホッケーの出場に驚いたり、野球の応援に熱が入ったり、マラソン女子の人選に一喜一憂したりと町全体がアテネ色に変わってきました。柔道、女子レスリング、体操、水泳とメダルの期待が大きい種目も目白押し。今年のアテネからは

目が離せません。また最近は大リーグを始め、サッカーやF1など海外で活躍する日本人の事が報じられる日も増えてきました。こんな若い世代の活躍に胸躍らせ、ある種の感動を覚えるのは私だけではないと思います。ガンバレ日本！頑張れ日本のお父さん！ただしオリンピック中継の見過ぎで、睡眠不足には呉々もご注意ください！



昭和33年開院当時



昭和40年病棟増築



昭和55年A館竣工



## 46年目の春

21世紀に対応できる機能分化した病棟を目指し、新館(C館)が昨年8月に完成いたしました。昭和33年4月に68床にて開設しました当院も今年で46期となり、一步一步階段を登るかのようになり進み成長してまいりました。時代の流れ、地域のニーズを組み入れ新館竣工、B館改修が完了し集大成とも成りうるこの期に、創設者である加藤邦之助(名誉院長)・とき子ご夫妻の記念肖像レリーフを新館玄関に掲げる構想が生まれました。ご夫妻の顔写真を元に肖像画を銅版により彫刻し、これを壁面に組み込むイメージで作成したいと依頼先を探していたところ、大府市在住で金属造形家の鬼頭正信先生とご縁がありお引受け頂ける事となりました。鬼頭先生は、日展を始め様々な展示会に出展され、また大倉会館、大府市民総合体育館のモニュメントなど数々の作品を発表されると共に、名工大、中京女子大などで講義をされ、現在ご活躍をされている芸術家でございます。約半年の作成期間を経て去る平成16年4月16日、当院の創立記念日に除幕式を行いました。顔の輪郭、表情、温かい眼差しなど、よく特徴を捉えた大変すばらしい肖像レリーフが現れると、名誉院長ご夫妻は大変感銘されておられました。このレリーフが永遠にこの場に掲げられ、共和病院の発祥を語る起点となり受け継がれていく事を望む次第でございます。

平成16年 4月



共和会理念

### 『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは!

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは!

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

### 基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様へより良い医療をやさしく安全に提供し、納得のいく医療を受けていただくために努力しています。それには利用者の皆様と医療者の意志の疎通が最も重要であると考えます。

これを実現するために、わたしたちは思いやりのある、人格を尊重した医療を提供するとともに、以下のような医療を目指しています。

- 1.あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
- 2.あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
- 3.あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
- 4.あなたの医療上の個人情報保護は保護されます。

病院長 榎本 和



特定医療法人 共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>

## 俳句コーナー

名誉院長  
加藤 邦之助

玻璃盤に  
露のしたたる  
萼かな 漱石

今こそ母は温室で栽培されていますので何時でももとめられますが、やはり季節は初夏のものでしょうね。

クリスタルガラスの器に盛られた冷たい真紅の母の鮮やかさが「露のしたたる」という形容で生き生きと表現されています。しかし、この句は漱石の心の一番不安且つ不満であった時の句です。

明治三十二年十月、英国留学を命ぜられロンドンへ行ったのですが、自分の心の中で英文学と漢文学との矛盾相克に悩み、留学費が少なく充分勉強の本が買えなくて食事を節約した事などから「漱石が発狂した」という噂が広がり、また明治三十五年十二月に子規の死を報らされたりして、明治三十六年二月に帰国させられたりして、四月から東京帝国大学英文学講師となり英文学形式論の講義をしても学生の評判が悪く聴講生が少なかった頃でした。そんな時でもこの様なよい句が出来ました。